

平成28年度 東海村地域公共交通会議 (茨城県東海村) (地域内フィーダー系統確保維持事業)

地域の公共交通の現況

事業の目的・必要性

本村では、平成9年7月から運賃無料の福祉循環バスの運行を開始したが、毎年度の改善策実施にも関わらず、利用者の増加にはつながらなかった。そのため平成15年度より福祉循環バスに代わる新たな公共交通の検討に着手し、運行範囲を村内、利用対象者を村民に限定したデマンドタクシーを導入することとなり、試行運転を経て、平成18年4月から本格運行を開始した。

本村は東西、南北ともに約8kmとほぼ円形に近く、その中央にJR常磐線東海駅が立地しているなど、デマンド交通の運行に適していることもあり、一定の利用者数を確保しており、特に高齢者や障がい者などの重要な移動手段となっている。一方で、村外への利用希望や、村外からのビジネス客や観光客への対応など、デマンドタクシーだけではカバーしきれない課題が挙げられていた。加えて、福祉循環バスの運行開始前まで7路線が運行していた路線バスは、利用者数の減少により5路線が廃止され、残る2路線についても利用促進が必要な状況となっていた。

そのような状況を受け、本村では、誰でも利用できる路線バスの運行について、その可能性と利用者ニーズを的確に把握するため、アンケートやヒヤリング調査結果を基に、平成27年4月から路線バス（4路線）の実証実験を開始した。利用状況については当初の見込みを下回る状況であり、特に新設した2路線については、様々な機会を捉えてのPR活動や、沿線住民に対する初乗りクーポン付きチラシの配布など積極的な利用促進を図ったが、利用者数の増加には結びつかなかった。このような状況を踏まえ、地域公共交通会議で協議を重ね、利用実績が厳しい2路線の実証実験を9月末で終了させた上で、10月から平成28年3月まで、新たな2路線を加え実証実験を6か月延長することとなった。

その後、地域公共交通会議において、利用状況を注視するとともに、上半期と下半期の運行状況や利用状況などを元に検討を重ねた結果、下半期から運行している4路線を平成28年4月から本格運行させることとなった。

本村としては、地域公共交通網の整備により、通勤・通学等における利便性の向上はもとより、観光振興・交流人口の増加による地域の活性化も期待できることや、「福祉」「教育」「環境」「まちづくり」の観点からも、公共交通の充実による「『まち』としてのイメージアップ」になるものと考えている。

しかしながら、そこには採算性という大きな課題もあり、何より利用者増に向けた取組みが必要であると考えているが、国や村からの公的な財政支援も公共交通を維持していく上では必要不可欠であり、地域公共交通確保維持事業を活用し、持続可能な地域公共交通の維持・確保に努めていきたい。

事業の概要

公共交通の空白地区に対して、デマンドタクシー運行時間外の移動手段を確保するため、交通事業者の協力を得て東海駅東口～茨城東病院線を運行し、沿線地区の利便性の向上を図るとともに、観光やビジネス目的での来村者に対する移動手段を提供する。

【路線バスの運行（運行主体：茨城交通株式会社）】

- ・毎日運行（祝日、年末年始運休ダイヤも一部あり）
- ・7：00台～20：00台の15便／日（デマンドタクシー運行時間は対象から除く）



面積		37.48km ²
人口（H29.1.1時点）		38,363人
	15歳未満	5,914人
	65歳以上	9,201人
高齢化率		23.98%
世帯数		15,732世帯

協議会開催状況

- ・第10回【H27.12.9】公共交通再編の方向性について
- ・第11回【H28.1.28】地域公共交通の再編について
- ・第12回【H28.3.25】今後のスケジュールについて
- ・第13回【H28.6.24】地域内フィーダー系統確保維持計画について
- ・第14回【H28.8.30】路線バスのダイヤ等改正について
- ・第15回【H29.3開催予定】これまでの取組及び今後について

前回の事業評価結果の反映状況

住民及び利用者を対象としたアンケート・ヒヤリング調査の結果及び平成27年度に実施した路線バスの実証実験結果等を基に東海村地域公共交通会議において議論を重ね本格運行化する路線を選定

定量的な目標・効果

【目標】

- ・利用者数の確保
- ・高齢者の公共交通の利用比率向上
- ・高齢者の運転免許返納者数の増加
- ・観光ボランティアガイドの対応者数向上

【効果】

- ・これまでバス路線がなく、ＪＲ常磐線東海駅まで距離がありデマンドタクシー運行時間外において公共交通が空白となる地区を解消できる。
- ・安全、安心、環境、まちづくりに貢献することができる。
- ・隣接自治体等との更なる交流促進を図ることができる。

目標効果の達成状況

- ・利用者数の確保

東海駅東口～茨城東病院

【平成27年度】（実証実験期間）

H27.04～H27.09： 8,935人（48.9人／日、2.82人／台）

H27.10～H28.03： 9,342人（51.1人／日、3.05人／台）

（年間合計）18,277人（50.0人／日、2.93人／台）

【平成28年度】（本格運行）

H28.04～H28.09： 10,608人（58.0人／日、3.33人／台）

（年間推計）21,216人（58.0人／日、3.33人／台）

<参考>

路線バス全体の利用者数

【平成20年度】39,165人（廃線前の実績）

【平成27年度】38,497人

【平成28年度】47,134人（H28.4～9の実績を基に推計）

アピールポイント

- ◆積極的な利用促進活動の展開
- ◆沿線自治会との協力
- ◆住民・利用者ニーズの把握
- ・地域公共交通の調査・研究事業（茨城大学への委託事業）
- ・地域公共交通網形成計画の策定
- ・ラッピングバス 2台導入
- ・ラッピングバス車内の賃借（子ども絵画展、イベント案内）
- ・沿線自治会との協力
自治会イベントでのPR活動
 - ・らくがきバス、乗り方教室
 - チラシ配布、のぼり旗の設置 等
- ・公共交通マップの作成、全戸配布

今後の改善点

◆通勤・通学での利用をさらに促し、利用者数の増加を図るため、村内事業所に対する啓発活動（バス通勤の促進、ノーマイカーデー等の取組推進など）を行うとともに、学校等を通した子どもたちへのPR活動を積極的に展開する。

◆沿線自治会との連携をさらに強化し、高齢者や将来の公共交通利用者となる子どもたちへの普及啓発に努める。

◆継続した広報PR活動を実施し、路線バスやデマンドタクシーの認知度、利用者数を向上させ、持続可能な公共交通網の形成を目指す。

- ・公共交通マップの配布
- ・街頭キャンペーンの実施
- ・子ども向けチラシの配布
- ・各種イベント実施

【参考資料】

地域公共交通の体系（H28.4～）



J R 常磐線

東海駅

村立東海病院

総合福祉センター

原研前

虚空蔵尊前

茨城東病院

デマンドタクシー「あいのりくん」

運行範囲：村内全域

うち補助対象路線

—— 【東海駅東口～茨城東病院線】

- | | |
|----|----------|
| 1 | 東海駅東口（発） |
| 2 | イオン東海店前 |
| 3 | なごみ入口 |
| 4 | 東海中学校 |
| 5 | 荒谷台住宅前 |
| 6 | 真崎十文字 |
| 7 | 真崎仲町 |
| 8 | 真崎東 |
| 9 | 原研前 |
| 10 | 阿漕ヶ浦 |
| 11 | 虚空蔵尊入口 |
| 12 | 村松宿 |
| 13 | 原子力機構前 |
| 14 | 茨城東病院前 |
| 15 | 茨城東病院 |

路線バス（5系統）

——	東海駅東口～茨城東病院
——	東海駅東口～茨城東病院～海浜公園
——	東海駅東口～フローレスタ・南台・緑ヶ丘循環線
——	東海駅東口～フローレスタ・南台・緑ヶ丘～海浜公園 （平成28年9月30日で廃止）
——	東海駅西口～笠松運動公園～水戸駅・茨大前営業所

